中耳炎のおはなし

監修

藤田医科大学 名誉教授
医療法人尚豊会 みたき総合病院 耳鼻咽喉科 顧問
鈴木 賢二 先生

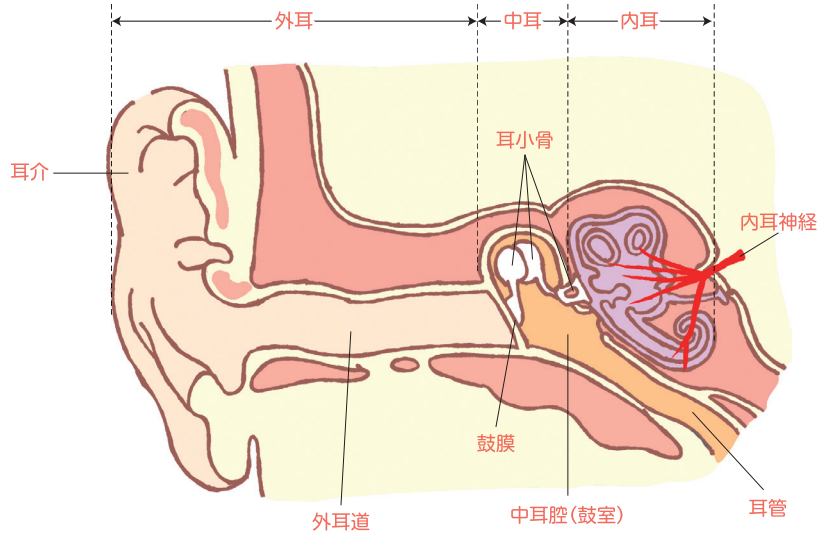
中耳炎はどんな病気？

耳の中の中耳という部位に細菌が侵入することで炎症が起こる病気です。耳の痛みや、耳から分泌物が流れ出たり、熱が出たりします。幼小児に多い病気です。7 歳ぐらいになると耳管が成熟して、構造上、中耳炎を起こしにくくなります。

耳の中はどうなってるの？

- 耳は、外耳、中耳、内耳から成り立っています。鼓膜やその奥の鼓室が中耳で、鼓室は耳管という管でのどの上のほう（鼻の奥）につながっています。
- 耳管は、ふだんは閉じていますが、ものを飲み込む時などにわずかに開いて、空気を中耳腔（鼓膜の奥の室）に取り入れ、中耳腔の気圧を調整します。また、中耳腔にたまった粘液などを鼻の奥へ排除する働きもあります。

● 耳の構造



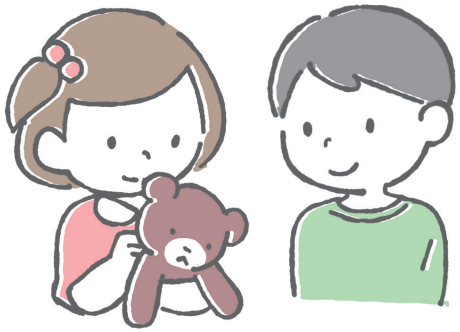
どんな症状があるの？

- 耳が痛くなります。
- 耳だれといって耳から膿（うみ）のような液などの分泌物（耳漏（じろう））が出ます。中耳腔に膿が溜まり、そのために鼓膜が破れて耳の外に膿が流れ出てくる場合です。
- 耳が聞こえにくくなります（難聴）。鼓膜が腫（は）れたり、中耳腔に膿がたまったり、穴があいたりするのが原因です。

急性中耳炎の原因、症状、治療法は？

原因・症状

- 急性中耳炎は１～２歳頃と４～６歳頃の子どもに多い病気です。鼻やのどの炎症を起こした細菌やウイルスが、耳管を通って中耳に侵入することが主な原因です。
- 幼小児では耳管が未熟で短く太く水平なので、のどから菌が上がってきやすいためと考えられています。
- 耳が痛い、熱が出る、耳が聞こえにくいなどの症状や、鼓膜に穴があいて膿などの分泌物が出てくることもあります。



治　療

- 急性中耳炎の治療は、化膿止めや、鼓膜の腫れや痛みをおさえたり、かぜの症状を早く治すための解熱鎮痛薬による治療で、たいていは１～２週間で治るのがふつうです。早いうちに耳鼻咽喉科を受診して、正しい治療を受けることが大切です。

- 原因となっているかぜが治りきらないと、炎症がおさまらずに中耳腔に液体がたまった状態（滲出性中耳炎）になることがあります。

滲出性中耳炎の原因、症状、治療法は？

原因・症状

- 発熱や耳の痛みはありませんが、炎症により生じた液（滲出液）が鼓膜の奥（鼓室の部分）に溜まっている状態です。
- 中耳炎を繰り返すことで耳管の働きが悪くなり、難聴、耳閉感、耳鳴りおよび自分の声が響くなどの症状が起こります。また、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎、アデノイド（鼻とのどがつながるあたりの炎症による肥大）などがあると、鼻から耳の通りが悪くなって耳が聞こえにくくなります。４～５歳までの乳幼児に多く、また高齢者にもみられます。
- 小さいお子さんの場合、症状を訴えないことが多いので、名前を呼んでも振り向かない、テレビの音を大きくする、などの変化に注意しましょう。

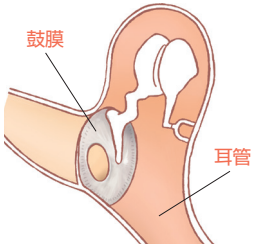
治　療

- かぜの症状や慢性副鼻腔炎、アデノイドなど原因となっている病気を治療することが大切です。
- 鼓膜の奥に液体が溜まっているときは、鼓膜を切開して液が流れ出るようにしたり、鼓膜に換気チューブを留置して、耳管の空気の通りがよくなるようにする治療が行われます。

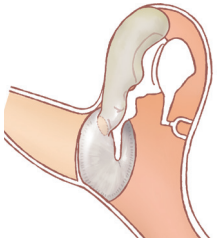
慢性中耳炎の原因、症状、治療法は？

原因・症状

- 急性中耳炎が完全に治らずに、慢性的に中耳が化膿している状態です。
- 膿のような耳だれや、聞こえにくい（難聴）などの症状が続きますが、鼓膜の穴が大きくあいて、そのままふさがらなくなったりします。この状態を慢性穿孔（せんこう）性中耳炎といいます。
- 滲出性中耳炎や慢性中耳炎から鼓膜の一部が陥凹して、真珠腫（しんじゅしゅ）性中耳炎という周囲の骨を破壊する病気になることがあります。真珠腫は手術で取り除く必要があります。



慢性穿孔性中耳炎


真珠腫性中耳炎

治　療

- 慢性中耳炎の根本的な治療法は手術です。鼓膜の奥の方の不良な粘膜を取り除き、聴力を改善する手術（鼓室形成術）などが行われます。鼓膜に穴があいてふさがらなくなった場合は、穴をふさぎ音がうまく伝わるようにする手術（鼓膜形成術）などが行われます。
- 耳漏がある場合は、化膿止めも有効です。注射、あるいは点耳液といって耳の中に直接お薬を入れる方法もあります。

好酸球性中耳炎の原因、症状、治療法は？

原因・症状

- 気管支喘息や好酸球性副鼻腔炎などの全身性アレルギー体質があると発症しやすいです。
- 鼻すすり、強い鼻かみは発症原因となることがあります。
- 好酸球が多く含まれる粘り気の強い中耳貯留液により難聴、耳閉感、耳漏が出現します。
- 急に神経性難聴となることがあるので、その場合は至急耳鼻咽喉科を受診してください。

どんなことに注意したらいいの？

- 小さいお子さんのかぜは早く治して中耳炎にならないようにしましょう。
- 乳幼児のこんなサインは中耳炎かもしれません。耳鼻咽喉科の医師に相談しましょう。

⇒ 耳の痛みのサインを見逃さない

不機嫌であったり、ひんぱんに耳にさわったり、耳にさわられるのをいやがる。

⇒ 難聴のサインを見逃さない

聴こえの良いほうの耳で聴こうとするため顔を回し、聴きやすい耳を前にする。名前を呼んでも振り向かない。何回も聞き返す。テレビの音を大きくする。

⇒ 耳から粘っこい液が出ている（耳漏）

① 鼻すすりをやめさせる。鼻すすりは耳管経由で中耳が陰圧となり菌が上がりやすくなります。

② 鼻を勢いよくかまないようにしましょう。勢いよくかむと、細菌が鼻から中耳に侵入して中耳炎の原因になります。

③ 軽い中耳炎であっても、繰り返しているうちに音を伝える骨（耳小骨）が破壊されて、重い難聴になることがあります。早いうちに耳鼻咽喉科を受診しましょう。

病・医院名

CEOLIA セオリア ファーマ 株式会社

ENT-85（DA-180）